

令和7年度第2回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会会議録（要旨）

|         |  |  |
|---------|--|--|
| と き     | 令和8年1月23日（金）午前9時30分～午後11時30分   |  |
| ところ     | 江別市民会館 37号室  |  |
| 出席者等    | 委員   | 【12名】 吉田磨委員、廣田知彦委員、渡邊工委員、樋口登委員、坂本憲昭委員、西巻伸一委員、干野里佳委員、安倍隆委員、星智子委員、岡崎朱実委員、後木一哉委員、村田和陽委員<br>※三上康隆委員、坂口浩昭委員、川口谷仁委員（渡邊氏代理出席）、海保富江委員は欠席 |
|         | 事務局  | 【8名】 近藤生活環境部長、千葉生活環境部次長、堂前環境室長、鈴木環境課長、辻屋環境保全係長、松橋政策担当主査、丹羽脱炭素・環境計画推進担当主査、西尾環境保全係主任   |
|         | 傍聴者  | 【0名】   |
| 1. 開会宣言 |  |  |
| 丹羽主査    | <p>それでは、これより令和7年度第2回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会を開催いたします。</p> <p>本日の委員の皆様の出席状況であります。15名中、12名の出席ですので、江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会設置要綱の第5条第2項の規定を満たしており、本協議会が成立していることをご報告いたします。</p>  |  |
| 2. 議事   |  |  |
| 丹羽主査    | <p>これから議事に入りますが、協議会の設置要綱第4条第2項で学識経験者の方を会長としておりますことから、ここからは吉田会長に進めていただきたいと思います。</p> <p>吉田会長、よろしくお願いいたします。</p>   |  |
| 吉田会長    | <p>これ以降、私が議事を進めさせていただきます。</p> <p>まず、次第の「2」、議事（1）の「報告事項」の「(ア) 第1回協議会でご提案いただいた内容」について、資料1に関して事務局から説明をお願いいたします。</p>   |  |
| 丹羽主査    | <p>前回の第1回協議会で、事務局から環境省が作成した「自治体排出量カルテ」の江別市の数値をご紹介しましたが、その際に、一人当たりや一世帯当たりの排出量は、他の自治体と比べてどうなのか知りたいとのご意見をいただきましたので、他市のカルテなどで確認できました内容についてご報告いたします。</p> <p>初めに資料の訂正をお願いいたします。</p> <p>資料1の道内自治体及び全国の自治体排出量カルテをご覧ください。</p> <p>おもて面の1ページは、上段の江別市と近隣市や同規模の市のデータになりますが、</p> <p>各市の部門別の円グラフの下に横に細長い四角で囲んでいる所に人口、その下に世帯数、そして、それぞれの右横に、一人当たりの排出量と、世帯当たりの排出量を記載しております。この四角に囲んだ中の右下が世帯別の排出量の数値となりますが、単位が、t-CO<sub>2</sub>/人、一人当たり t-CO<sub>2</sub> と記載しておりますが、こちらが誤りで、t-CO<sub>2</sub>/世帯、一世帯当たりの t-CO<sub>2</sub> の誤りでございます。大変申し訳ございませんが訂正をお願いいたします。</p> <p>それでは説明に入らせていただきます。</p> <p>江別市と道内の同じ規模の自治体や、江別市近隣の自治体などの数値を比較しますと、各市の産業構造が異なるため、部門別の家庭部門の割合はそれぞれ異なりますが、一人当たりの排出量で見ると、2.12t～2.45t となっており、一世帯当たりでは記載の全ての自治体が 4.32～4.33t と、江別市とほぼ同程度でありました。</p> <p>次に、裏面の2ページをご覧ください。</p> <p>2ページでは一番上段の左側に全国平均、右に北海道、そして2段目以降が各地方の都道府県を抜粋しております。</p> |  |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>数値を見ると、資料の1段目の右と、2段目の左にあります北海道や東北の青森県などでは、一人当たり2.36t、一世帯当たりが4t台であるのに対し、その他の地域では、一人当たりは1t台、一世帯当たりが富山県を除いて、2～3t代となっており、積雪寒冷地ではない本州の地域が全国平均に近い数値に対し、北海道などの積雪寒冷地が全国より排出量が高い傾向にありました。</p> <p>また、本日お配りした資料1の②をご覧ください。</p> <p>環境省の地方別世帯当たり年間エネルギー種別CO2排出量のデータですが、こちらでも北海道、東北、北陸の排出量が多くなっております。</p> <p>これらのデータから、一般的な考察ではありますが、北海道や江別市は積雪寒冷地であるため、暖房などの熱需要が多く、一人当たり、一世帯当たりの排出量が全国よりも多くなるのではないかと推測されるところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>委員の皆さまから、何か質問等がありますでしょうか？</p>   |
| 委員一同 | (なし)  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>次に、(1)「報告事項」の「(イ)第2次環境管理計画 兼 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の令和6年度施策一覧と各施策に対する市の取組等」について、資料2に関して、事務局から説明をお願いいたします。</p>  |
| 丹羽主査 | <p>第2次環境管理計画兼地球温暖化対策実行計画(区域施策編)令和6年度施策一覧と各施策に対する市の取組について、ご報告いたします。</p> <p>A3サイズの資料2、第2次環境管理計画兼地球温暖化対策実行計画・区域施策編 施策一覧と各施策に対応する市の取組をご覧ください。</p> <p>本資料は、令和6年度からスタートした計画を推進していくにあたり、各施策に対応する市の取組状況を全庁的に確認したものになります。</p> <p>計画の中間年での見直しや本計画の目標の達成に向けた検証材料の一つとして、施策の進捗状況の把握を行っていくため、まずは今実際に市が取り組んでいることを整理するところから始めるものとなります。</p> <p>資料は全7ページとボリュームがあるため、本日は主な項目や若干わかりにくい項目について、抜粋してご説明いたします。</p> <p>初めに、1ページ、上から2段目、環境目標の1地球環境の施策1事務事業における脱炭素化の率先実行の①省エネルギー行動と公共施設の省エネルギー化の推進についてですが、LED照明導入の推進について挙げており、薄く緑色に塗られた列の市の取組などに記載のとおり、公共街路灯や公共施設への導入を推進しているところです。</p> <p>黄色に塗られた列、主な指標に記載の数値に関しましては、LED照明の導入状況ではありますが、確定数値ではなく、現時点で各所管課が確認できた数値でございます。</p> <p>この数年間でもLEDへの入れ替えの実施が各施設で行われており、実施中、調査中の施設もあるため、回答できなかった部署もある状況ですが、回答された数値として、照明数で把握しているものが3,059灯、各施設で把握しているのが29施設、防犯灯が8,261灯となっております。</p> <p>次に、そのすぐ下、上から3段目です。</p> <p>黄色に塗られた列の主な指標に記載の、エネルギー診断実施施設数(累計)についてですが、脱炭素化に有効な手段の一つである省エネルギー化を効果的に進めるため、専門家による省エネルギー診断を実施した施設数です。</p> <p>診断事業に対する国の補助制度の変更などにより、江別市も数年間実施されていなかったですが、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)をスタートした令和6年度から、診断の実施を再開して、毎年度1～3施設ほどを実施していきます。</p> <p>令和6年度は、比較的電力量が大きい浄水場と給食センターで実施しました。</p> |

続きまして、裏面の2ページをご覧ください。上から3段目、施策2家庭への脱炭素化の普及促進の③家庭への太陽光発電等の普及促進ですが、この後の別途報告でもありますが、江別市家庭向け脱炭素化普及促進補助金が、令和6年度から開始した事業となります。

家庭から排出される二酸化炭素の削減を図るため、太陽光発電パネルと定置用蓄電池の導入に対して、補助金を交付するもので、初年度である令和6年度は補助金を61件に交付し予算上限に達したところです。

続きまして、3ページをご覧ください。一番上の施策4再生可能エネルギーの導入拡大に向けたモデル構築の①民間事業者と連携したエネルギー地産地消の推進についてですが、令和6年から市内の木質バイオマス発電所で発電された電力を調達し、公共施設における再生可能エネルギーの地産地消の取組を進めています。対象となりうる113施設の内45施設で行われました。

続きまして、裏面の4ページをご覧ください。こちらは環境目標2の資源循環についてですが、市では生活環境部の廃棄物対策課を中心に講習会による啓発活動など、ごみ減量化を推進しているところです。

一番上の段の主な指標の欄に記載の講習会等参加人数901人は、各小学校に訪問して実施する、買い物の疑似体験をしながら、環境・ごみ減量・リサイクルの大切さを体験する、ごみ減量体験講座、買い物ゲームの参加人数です。

また、上から3段目の講習会等参加人数292人は、食品ロスに関連した講習会として、食品ロス削減レシピ講習会や生ごみ堆肥化講習会、生ごみ減量化講習会などに参加した合計人数となります。

続きまして、5ページをご覧ください。こちらは環境目標3の自然環境についてですが、多くの施策は前計画である第1次の環境管理計画から継続して進めております。

中段の施策2水と緑の保全の、上から3段目、石狩川や野幌森林公園での観察会や体験学習など、市民が自然に親しむ機会の創出に努めますについては、様々なイベントを開催して推進していますが、主な指標の欄に挙げているのは、実際に石狩川で実施している、小学生対象の川での体験学習、「弁天丸・ボートで学ぶ石狩川と千歳川」や「水辺の自然塾」、野幌森林公園の近隣地などで実施している「青少年キャンプ村」や、市内の名木を巡る「名木百選ウォッチング」になります。

続きまして、裏面の6ページをご覧ください。こちらは環境目標4の生活環境についてですが、市の取組の欄や主な指標で挙げているように、市では大気・水質・騒音・振動・悪臭などについて測定等による情報収集や調査を続けております。様々な調査を実施しているところではありますが、生活に密接に関わる身近な生活環境を保全するため、地域の環境の状況を継続して把握してまいります。

続きまして、7ページをご覧ください。こちらは環境目標5の参加・協働についてですが、環境教育・学習などによる意識啓発や情報発信など、取組のきっかけをつくるのが重要と考えているため、各世代へのセミナーやイベントの開催、情報の発信などを進めております。

これまでも実施しているえべつ環境SDGs広場や広報による周知に加え、令和6年度から新たに実施した市民や高校生向けの脱炭素セミナーなどによる啓発も実施しているところです。

各取組に関する説明は以上でございますが、冒頭でもご説明したとおり、これらの取組状況に関しましては、各施策に対応する市の取組の状況を全庁で確認していくものです。令和6年度をスタート年とする本計画に基づき、継続して把握していくことで、本計画の目標の達成に向けた検証につなげていきたいと考えており、まずは今実際に取り組んでいることを整理していくところから始めてまいります。

今回は1回目の集計のため、前年度からの推移や比較はまだできませんが、次年度以降はそういった検証も進めて、長期的な視点で取組状況やその結果を捉えて、施策の進捗状況の把握を行っていくとともに、全庁的に情報を共有して、よりよい施策の展開に努めてまいりたいと考えております。

|      |  |
|------|--|
|      | 以上でございます。  |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>委員の皆さまから、何か質問等がありますでしょうか？   |
| 岡崎委員 | まず、主な指標についてですが、目標年度における数値も示したほうが、進捗具合が分かって良いと思います。<br>また、施設数を示している部分について、全体数と達成数を示すように統一したほうが分かりやすいと思います。<br>次に、資料4ページ目の雑誌提供について、こういった雑誌を対象にしているか分かると良いと思います。<br>次に、公共施設の省エネ診断について、診断結果を受けて気づいたことなどを把握することが大事かと思いました。<br>次に、5ページのグリーン・ツーリズム関連施設の利用者数が66万7,555人と多いので、この方々に対する情報提供などは効果があると思いました。                  |
| 丹羽主査 | まず指標の示し方についてですが、一部分かりにくい部分もあるかと思しますので、今後見直していきたいと思います。<br>次に、雑誌の詳細については把握していないため、担当課に確認したいと思います。<br>次に、省エネ診断については、結果報告を受ける際に各施設の所管課とともに環境課職員も同席して状況を把握しているところでございます。今後は、この診断結果などを踏まえてどのような取組を行っていきけるか検討してまいりたいと思います。<br>最後に、グリーン・ツーリズムについてですが、利用数が多いことから、環境に関する今後の取組で活用できる場面があると考えられますので、今後所管課と共に検討してまいりたいと思います。 |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>こちらの結果は、今後ホームページなどで公表されるのでしょうか。   |
| 丹羽主査 | このままだと項目が細かく多いので、一部抜粋やもう少し大きな目標に対する結果とするなど、掲載形式については検討する必要があると考えております。   |
| 吉田会長 | どのような形で公表するのか、ぜひ検討していただきたいと思います。<br>他にいかがでしょうか。  |
| 安倍委員 | 省エネルギー診断についてですが、国の制度が変わって再び補助金が出るようになったとのお話がありましたが、民間企業などが実施する場合も補助金が出るといった情報があれば教えていただけますでしょうか。   |
| 丹羽主査 | 市で実施している省エネルギー診断ですが、以前は全額補助金の対象でしたが、現在は費用の8～9割が補助金の対象となり、一部負担が発生する形となっております。<br>補助金については、民間施設の診断も対象になっていたかと思います。   |
| 吉田会長 | ありがとうございます。9割の補助はかなり大きいですね。<br>診断についてぜひ推進していただければと思います。<br>他にいかがでしょうか。   |
| 委員一同 | (なし)   |
| 吉田会長 | 次に、(1)「報告事項」の「(ウ) 家庭向け脱炭素化普及促進事業と脱炭素セミナー等の実績」について、資料3に関して、事務局から説明をお願いいたします。  |
| 丹羽主査 | 続きまして、環境課で実施しております、家庭向け脱炭素化普及促進事業と脱炭素セミナー等の実績について、ご報告いたします。<br>初めに訂正をお願いいたします。<br>資料3をご覧ください。<br>おもて面、1ページの一番下に令和7年度分のCO2削減量について記載しておりますが、※印の参考部分の排出量数値ですが14万6,131kgとなっておりますが、正しくは13万8,038kg、また、杉相当で約1万438本分となっておりますが正しくは9,860本分、また灯油タンクで約133台分が、正しくは約125台分の誤りでございます。  |

申し訳ございませんが、訂正をお願いいたします。

それでは資料の説明に入らせていただきます。

初めに、家庭向け脱炭素化普及促進事業について、1 ページに結果概要を記載しております。

本事業は、昨年度に江別市で初めて家庭向けの太陽光パネルと蓄電池の設置に対する補助を実施したものでございます。

資料の上段に記載のとおり、昨年度、今年度、ともに予算 1,000 万円で、令和 6 年度は申請受付から約 2 か月で 61 件、令和 7 年度は約 1 か月で 64 件、いずれも予算上限に達し、受付が終了となりました。

令和 7 年度の内訳としましては、太陽光と蓄電池の両方での申請が 36 件、蓄電池のみが 28 件、また、既存・新築住宅の内訳は、既存住宅が 23 件、新築住宅が 41 件でありました。

申請者を世代別で見ると、令和 7 年度は 20 代から 30 代が 6 割以上で、地区別では野幌地区が 5 割近くを占めております。

この補助による令和 7 年度分の CO2 削減量としては、市が試算した数値で、あくまでも参考数値ではありますが、申請 64 件で、全件 10kW 出力の太陽光パネルを設置したとした場合、40 万 9,378 kg、補助申請の太陽光パネルだけでは 13 万 8,038 kg の削減効果があったものと考えております。

この 2 年間、申請が予算上限に達するなど、補助を必要とする方の多いことが確認でき、今年度の受付終了後も、次年度以降の事業を継続してほしいとの声をいただいているところです。

市担当課としては、引き続き、家庭部門の二酸化炭素の排出量削減を促進する必要があると考えているため、今後も補助事業を継続していきたいと考えています。

次に、裏面の 2 ページ、脱炭素セミナー等の結果概要です。

江別市では、このあと岡崎委員からお話がありますワットモニター出前授業など、環境について学ぶ、様々なイベントや講座などを開催しておりますが、今回は令和 6 年度からの計画のスタートに向けて、新たに実施したセミナーや一部内容の見直しを行ったイベントなどの開催結果について、抜粋してご報告いたします。

資料の上段が、各啓発セミナー等の開催回数、下段が参加者数です。表の一段目の市民向け脱炭素セミナーについてですが、昨年度から 11 月に開催しているセミナーで、今年度、令和 7 年度は、令和 6 年度の本セミナーで大変好評でした気象予報士の菅井貴子さんをもう一度呼びして気象災害や気象データをもとに「私たちにできる地球温暖化対策」についてのご講演いただいたほか、北海道コカ・コーラボトリング株式会社から「江別市での脱炭素社会実現に向けた取組」についてもご講演いただきました。令和 6 年度は 57 名、令和 7 年度は前日に積雪などもあったのですが 48 名が参加されました。

次に、2 段目の高校生向け脱炭素セミナーは、高校生を対象に各高校に出向き出前授業を実施するもので、開始した令和 6 年度は 1 校、今年度、令和 7 年度は記載の 3 校から開催の希望があり実施しました。

内容としましては、「地球温暖化の現状とリスク、そして GX へ」をテーマとして、当協議会の吉田会長にご講演いただきました。

令和 6 年度は 232 名、令和 7 年度は江別高校で 2・3 年生の全生徒が参加したため、3 校の合計で 596 名でありました。

参加者からは、このまま温暖化が進むとどのようなリスクがあるのか、具体的にどのような取組をしていけば良いのかを考えるきっかけとなったなどといった感想がありました。

次に、3 段目と 4 段目の SDGs・ソーラー発電教室、SDGs・ソーラー発電出前授業についてですが、発電教室は小学校の夏休み期間を利用して、江別市環境クリーンセンターで開催し令和 7 年度は 60 名が参加、一方、出前授業は各小学校に出向いて開催し、令和 7 年度は小学校 5 校 13 クラス 356 名の参加があったものです。

|      |  |
|------|--|
|      | <p>そのほかにも、職員向けに脱炭素セミナーを開催しているほか、地球温暖化対策実行計画の内容について紹介する出前講座も実施しております。</p> <p>ご紹介したセミナー等はいずれもアンケート結果などで、参加者から大変好評を得ており、今後も継続して開催することで多くの市民の意識の醸成につながるものと考えております。</p> <p>今後も市民が環境意識を高められるように、様々な環境学習に触れられる機会の創出を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>  |
| 岡崎委員 | <p>まず、CO2削減量について、資料では全件10kw出力の太陽光パネルを設置した場合で算定していますが、実際に申請があった太陽光パネルの出力で算定した場合の削減量も分かると良いと思いました。</p> <p>次に、申請者へのフォローアップについてですが、札幌市では補助金を利用して太陽光パネルやエネファームを設置した場合に「札幌市エコエネクラブ」に加入してもらい、会員のCO2削減量をまとめてクレジット化して市が販売するという形をとっているようです。江別市でここまで行うのは難しいと思いますが、補助金の申請要件として、1年に1回アンケートのような形で発電量を報告してもらう、市から情報提供するなど、申請者との繋がりを作っていくことは検討されているのでしょうか。</p> <p>また、これは個人的な疑問ですが、新築住宅において蓄電池のみ申請対象となっている方について、太陽光パネルも一緒に設置されていると思うのですが蓄電池のみ対象となった理由について教えていただきたいです。</p> |
| 丹羽主査 | <p>まず、フォローアップですが、当市では補助金の交付決定通知を送付する際に、地球温暖化対策の啓発チラシを同封して、申請者への意識の醸成を図っております。今後におきましても、申請者イベントなどの情報提供やアンケートといった取組ができないか検討してまいりたいと思います。</p> <p>次に、蓄電池のみ申請対象となっている方がいる理由についてですが、当市の補助金は北海道の補助金を一部活用しているため、交付要件を北海道の補助制度に則って定めており、設置した太陽光パネルが要件の対象外となった方がいるところです。</p>   |
| 岡崎委員 | <p>申請については、個人の方よりも業者さんからが多いのでしょうか。</p>   |
| 丹羽主査 | <p>初年度は個人の方からの問い合わせも多くありましたが、その後補助金について事業者の間でも広く認知され、今年度については事業者から対象となる市民などへ本補助金が紹介されての申請が多かったです。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>  |
| 委員一同 | <p>(なし)</p>  |
| 吉田会長 | <p>脱炭素セミナーについては、次の世代に伝えていくことが大切ですので、今後も継続していただきたいと思います。</p> <p>次に、(1)「報告事項」の「(エ)ワットモニター出前授業」について、岡崎委員から説明をお願いいたします。</p>  |
| 岡崎委員 | <p>2017年から、江別市内の小学校で「ワットモニター出前授業」というものを実施しています。その中で、子ども達から色々なアイデアが出ておりますので、授業の内容と共に紹介させていただきます。</p> <p>まず、ワットモニターについてですが、これは家庭の消費電力を測定できる簡易検電器というものです。これを使い、身近な家電の電力を測りながら地球温暖化について考えることが授業の目的となります。</p> <p>実績ですが、2017年から2025年までに6年生7クラス、5年生32クラスで実施しております。今年度は市内4校の5年生7クラス、155人で実施しました。</p> <p>次に、実施形態ですが、江別市環境課さんが年度初めに市内小学校へ実施希望を募っています。授業時間は45分で、学校によって総合、理科、家庭科の時間と</p>   |

なっています。

授業の1～3週間前くらい前までに学校の先生と打合せをし、教室の下見も行います。

当日は授業開始の40分くらい前から設営を行い、開始後は担当の私と北海道グリーンファンドのスタッフ1名の合計2名で進行しています。

費用については、私については北海道地球温暖化防止活動推進員派遣制度を利用し、北海道グリーンファンドのスタッフについては社会貢献事業という形でいずれも江別市の支出はない形で実施しております。

次に、実際の授業の流れですが、まず導入を行い、次にスライドショーを行います。スライドショーでは、最初に世界の気候変動の推移を見た後、気づいたことや感想を発表してもらいます。ここでは、世界各地で異常気象や気象災害の頻度が増えているということ学びます。

次に、地球温暖化の話をするのですが、一方的な話ではなく、クイズ形式にしています。ここでは今の地球の平均気温と、温室効果ガスが全くない場合の温度について学び、温室効果ガスが全くないと地球は寒すぎて住みづらくなるけれども、多すぎても困ったことが起きるといった話をします。

次に、ゼロカーボンについての話をします。現在は二酸化炭素の出す量と吸収する量のバランスが悪いことで温暖化が起きており、これらの量を同じにすることをゼロカーボンと言い、北海道や江別市でも2050年までにゼロカーボンを目指しているという話をします。

次に、明かりの歴史について話をします。ものを燃やす明かりの時代から、エジソンが白熱電球の長寿命化に成功したことから電気の時代になり、その後60年ごとに蛍光灯やLEDが出てきたという説明をします。

その後、実際にワットモニターを使い、3名の児童に白熱電球・蛍光灯・LED電球の消費電力を測ってもらい、さらに各電球の上に手をかざし、温度の違いを感じてもらいます。ここで、一番温かい白熱電球が一番消費電力も多いことから、電気を熱に変えるものは消費電力も多くなるということに気づいてもらいます。

次に、ドライヤー・掃除機・テレビの消費電力をワットモニターで測る実験をします。実験前に消費電力の多い順番を予想してもらい、それから実際の測定に移ります。測定してみると、ドライヤーの消費電力が意外と多いこと、掃除機に待機電力が発生していることや、掃除機の強さを変えることで消費電力も大きく変わることを、児童の多くが一番消費電力が多いと思っていたテレビが、一番消費電力が少ないことが分かります。

また、画面の明るさで消費電力が変わることも示し、スマートフォンやタブレット端末でも同じということをお伝えします。

続いて、使用時間を考慮した消費電力や金額などを比較することで、使用時間によっても消費電力が変わってくるということに気づいてもらいます。

次に、グループワークとして、ゼロカーボンのために「個人で」「学校で」「江別市で」できることを話し合い、出てきたアイデアを付箋に記入し、模造紙に貼ってもらいます。アイデアは節電関係の内容が多いですが、廃棄物についての内容も結構出てきます。SDGsについて勉強している学校では5Rの話やシェアすること、使い切ること、修理して使うことが大事だといった内容も出ています。

他には、植樹をする、移動の際は自転車やハイブリッド車などを使う、徒歩で行く、節水する、ゼロカーボンについてみんなに知らせることも大事といった内容が出ています。

最後に、ワークシートに授業を通して疑問に思ったことなどを書いてもらいます。ここでは、自分で出来るのが結構あった、江別市ではCO2を減らすためにこういった取組をしているのか知りたいといった感想がありました。

なお、児童の感想やグループワークで出た意見については、一部抜粋して資料に掲載しております。

こういった内容を45分で実施するのですが、色々な意見が出てきます。今後の江別市の取組においても、子どもや大人に伝えるだけでなく、色々な意見を聞き、

|      |  |
|------|--|
|      | 皆に考えてもらう場を設けて、市と市民が対等に付き合っていくことができると良いと思います。   |
| 吉田会長 | ありがとうございました。<br>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？   |
| 後木委員 | ワットモニター出前授業は、何年生で実施することが多いですか。   |
| 岡崎委員 | 5年生が多いです。6年生でも実施していますが、個人的には、5年生が丁度良いのかなと思います。   |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>他にいかがでしょうか。   |
| 安倍委員 | 子どもも大人と同じように考えているのだなと思いました。<br>児童の意見で水に関するものがありますが、授業の中で水についてはどのように話しているのでしょうか。  |
| 岡崎委員 | CO2 がどこから出ているかという話をする際に、水を流したりする時にエネルギーを使うので、そこから CO2 が出ているという形で水の話をしてします。   |
| 安倍委員 | 水以外にも食べ物の話など、授業で直接話していないことについても児童から意見が出るのですね。  |
| 岡崎委員 | 学校によっては SDGs の勉強をしており、色々調べている子だとゼロカーボンにと SDGs が繋がっていることに気づきます。   |
| 安倍委員 | 子供らしい発想や、こちらが思いつかないようなことが沢山出てきて楽しそう<br>で、自分もやってみても良いかなと思いました。  |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>廃棄物についても、水と同じように授業に出てくるのでしょうか。  |
| 岡崎委員 | そうですね。<br>ゴミを運んだり燃やしたりする際に CO2 が発生するという風に話しています。<br>児童にとっても身近なことなので意見としても出やすいのかなと感じます。   |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>事前の打合せでは、小学校の授業などで SDGs の話をされているか聞くことはできるのでしょうか。  |
| 岡崎委員 | 打合せの際には、クラスの雰囲気や、授業に関連したことを勉強しているか、<br>授業をどんな風に今後に繋げたいかななどを聞きます。その中で SDGs の話も出てき<br>ます。  |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>学校での取組との繋がりというのは中々難しく、現場で聞くしかない点が大<br>きいのですが、事前にそういった点も打合せできるのは良いですね。<br>他にいかがでしょうか。  |
| 村田委員 | 2点お聞きします。<br>一つ目に、江別市の取組を知りたいというお子さんのお話ですが、担当者に関<br>連資料をお渡しした方がよろしいでしょうか。<br>二つ目に、当市では夏休みに SDGs ・ソーラー発電教室を実施しておりますが、<br>参加者はソーラーライトがついた模型の家を持って帰ります。ワットモニター出<br>前授業ではこういったお子さんからご家庭にフィードバックできるようなものは<br>ありますか。   |
| 岡崎委員 | 去年までは、自宅でクールチョイスの取組を実践したらシールを貼り、学校に<br>提出してもらおうといったことを行っていました。年々回収率が下がってきたの<br>と、シールの在庫がなくなったため、やめました。<br>ただ、ワークシートには「家に帰ってお母さんに教える」といった内容のコメ<br>ントもありますので、それぞれで家庭にフィードバックしているのではないかと<br>思います。<br>資料についてですが、資料配布といった形ではなく、出前授業のような形で江<br>別市の取組について紹介する、参加者に江別市の環境について知りたいことを挙<br>げてもらい、それに答えていく方が良いのではないかと感じました。 |

|      |   |
|------|---|
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。<br/>色々なところと繋がりができると良いですね。<br/>他にいかがでしょうか。</p>  |
| 委員一同 | (なし)  |
| 吉田会長 | 次に、(1)「報告事項」の「(オ) 委員の皆さまから最新の取組事項について」何かございましたら挙手をお願いいたします。   |
| 干野委員 | <p>江別協働ねっとわーくの干野と申します。<br/>出前環境学校について、今年度は残り1か所となりほぼ実施が完了いたしました。</p> <p>また、江別市さんにもご協力いただき、私どもの拠点である市民活動センター・あいでカレンダー市を実施しております。個人や法人の方からカレンダーを寄付していただき、それを必要な方にお渡しします。</p> <p>江別市さんをはじめ、旭川ガスさんや王子エフテックスさん、北電ネットワークさん、日本リサイクルネットワーク・えべつさんなど本日出席いただいている団体の方から、個人としても多くのカレンダーを寄贈いただきました。</p> <p>実績としては、昨年度は約4,000点、今年度は先日の時点で8,000点以上のカレンダーを寄贈いただきました。</p> <p>また、カレンダーを持っていかれた方に募金をお願いしていますが、今年度は1月7日に火災のあった大麻銀座商店街の復興支援に使わせていただくということで、多くの方にご協力いただいております。</p> <p>カレンダーの募集については今月末まで行っています。持ち帰りの方はお越しくください。特に大学関係の方で、過去に3月に転入された方で持っていかれた方が多くいらっしゃいましたので、こういった方向けにまとめて持ち帰り等の個別のご相談がありましたら、えべつ協働ねっとわーくまでご連絡ください。<br/>ありがとうございました。</p> |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございました。<br/>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>  |
| 岡崎委員 | 出前環境学校は全部で何校くらい実施されましたか。  |
| 干野委員 | <p>学校ではなく放課後児童クラブで実施しています。<br/>総数については今すぐに出るこないのですが、ほとんどの児童クラブで実施しております。時期については、夏休みや秋休み中の実施希望が多いです。</p>   |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。<br/>他になければ、せっかくですので本日資料をいただいている方からお話しいただければと思います。<br/>まずは資料4について、村田委員からお願いいたします。</p>   |
| 村田委員 | <p>市では、昨年10月22日に、北洋銀行さん、SUSTECHさんと、市内事業所から排出される温室効果ガス削減と省エネ等による経費の節減を目指して、三者協定を締結しました。</p> <p>内容としましては、市内事業者に対する普及啓発や脱炭素に向けた省エネデータの管理等に関する協定となります。</p> <p>時を同じくして、次のページで、工業団地協同組合130団体に対してアンケート調査を実施し、15事業者から回答をいただくことができました。</p> <p>回答内容は、ご覧のとおりですが、脱炭素に向けた社会情勢はご存知である一方、脱炭素化へのコスト負担が大きく、メリットを感じられないといった回答や、実際に温室効果ガスの排出量を把握していない回答が、約半数に上りました。また、取引先から温室効果ガスの削減要請があまりないように感じられ、脱炭素化に関する意識が全体的に低いように感じます。</p> <p>市としましては、令和6年度から家庭部門に対する補助はあったのですが、次に産業部門の温室効果ガスの排出量削減を目指す補助制度をつくり、令和8年度の予算が付けば、プロポーザルを実施して実施事業者を選定し、期限付きで補助を実施したいと考えており、まずは、省エネ等による市内企業の経費節減で企業にアピールしたいと考えております。</p>  |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>また、今月 27 日に、「環境経営普及セミナー」が、酪農学園大学の名誉教授の押谷先生による講演で、工業会館にて実施となります。どなたでも参加できますが、特に事業者の参加者数がとても少ないので、周りの方々へお声掛けいただくと大変助かります。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。<br/>樋口様から補足等ございますか。</p>  |
| 樋口委員 | <p>北洋銀行の樋口でございます。<br/>連携協定につきましては、現在三者で月 1 回程度協議しておりますが、具体化したものは現段階ではございません。<br/>また、工業団地の各事業所のアンケート結果を見ると温室効果ガスの削減の必要性をなかなか感じられず、意識向上に至っていないとのことでしたが、大手企業や上場企業ですと、CO2 排出量の報告が求められております。北海道の中小企業では、そういった企業と取引があった際に、サプライチェーンの中で報告をしないと取引できないと迫られて取り組んでいる面があり、CO2 削減の意識がまだまだ浸透していないと考えておりますので、今回のご提案を受け、我々としても市域全体で意識の向上を図っていきたくて考えております。</p> |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。<br/>最初の資料でも、産業部門の CO2 排出量は全体の 24%と家庭部門の次に多いとありましたので、テコ入れということで取り組んでいただければと思います。<br/>また、ESG の考え方も非常に大切であり、押谷先生のお話でそういった内容が聞けるかなと思います。<br/>ぜひ中小企業さんへの普及啓発を広げていただきたいと思います。<br/>他にいかがでしょうか。</p>  |
| 岡崎委員 | <p>130 団体中 15 事業者から回答いただいたということですが、皆さんお忙しいのでなかなかこういったアンケートに回答することが難しいのではないかと思います。ヒアリングに何うなどして直接やり取りすることで出てくる意見もあると思いますので、全て回るのは難しいですが、何か所か回ってお話をお聞きする機会を持ったほうが良いと思いました。</p>   |
| 村田委員 | <p>大手企業さんではサプライチェーンの関係でかなり脱炭素の取組を進めており、中小企業さんに対しても市として関わっていきたくて感じております。</p>   |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。<br/>他にいかがでしょうか。</p>  |
| 後木委員 | <p>環境経営普及セミナーですが、今回参加させていただきたいと思います。開催時期についてですが、平日の日中ですと中小企業の方はこの時間忙しいのかなと思いますので、夜間に実施できれば良いのかなと思います。</p>   |
| 村田委員 | <p>検討してまいりたいと思います。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。<br/>他にいかがでしょうか。</p>  |
| 委員一同 | <p>(なし)</p>   |
| 吉田会長 | <p>次に資料 5 について、引き続き村田委員からお願いいたします。</p>  |
| 村田委員 | <p>情報提供といたしまして、北海道の「第 2 次 ゼロカーボン推進計画」の素案の概要が、道から届いておりましたので、皆さまへお知らせいたします。昨年 12 月にパブリックコメントを終えており、今後、ラピダスや AI データセンター、苫小牧の CCS、洋上風力など、北海道における脱炭素が、どういう方向に向かっているかという情報提供になりますのでご参考にしていただければと存じます。</p>   |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございました。<br/>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>  |
| 委員一同 | <p>(なし)</p>   |
| 吉田会長 | <p>次に資料 6、資料 7 について、引き続き村田委員からお願いいたします。</p>   |

|      |   |
|------|---|
| 村田委員 | <p>資料6へ移りますが、こちら情報提供です。</p> <p>面白い記事がネットにありましたので、ご報告します。一つ目は、資料6にあります回転翼がない風力発電機です。空洞部の中間に、磁石とコイルがあり、筒の振動で交流を発電する仕組みのようです。</p> <p>まだ、スペインでの記事でインドでも実証実験するらしく、これまでの風力発電に比べると発電効率が低いらしいですが、設置面積当たりでは、ほぼ同じらしいです。</p> <p>バードストライクがなく、自衛隊のレーダーを気にすることもなく、コストダウンとメンテナンス経費が高くないので、今後期待できるかと思います。</p> <p>将来的に、太陽光発電とともに各家庭に設置できたら良いと思っています。</p> <p>次に、資料7に移りますが、これは日本のお話です。</p> <p>三菱化工機が、「水素吸収合金のハイデル」でカワサキ文化公園の提灯の電源として、「水素」を活用した実証実験を行っています。高圧ではなく、安定的に「水素」を利用できるということで注目されています。</p> <p>4ページ目の上段では、想定用途として、比較的小規模で、場所や使用期間が固定されない場所で、電力供給に優位点があるようです。水素の供給元があれば、学校や避難所に電源として設置できるかと思います。</p> <p>次に、別件ですが、今回のノーベル化学賞の記事を情報提供として掲載いたします。</p> <p>特定の気体を「金属有機構造体・モフ」というものに閉じ込めるらしいのですが、1立方センチのサイコロ程度大きさで、サッカー場に匹敵する表面積を持っているというものです。</p> <p>これを利用して、砂漠の空気から飲料水を生み出したり、空気中から二酸化炭素だけ吸着して回収したりするとか、有毒ガスだけ吸着できるなどの効果があるようです。二酸化炭素を地中深くに埋めようと莫大な金額をつぎ込んでいますが、果たしてその必要があるのかどうか疑問です。</p> <p>5ページになりますが、先日、天然ガスが豊富なインドネシアの映像がテレビで流れており、貧困世帯の家庭で、小さなボンベに天然ガスを入れて、それを利用して料理をしている光景が出ていました。</p> <p>将来的に、手のひらサイズで、水素を燃料としたキャンプの熱源が出てくるかもしれないととても期待しております。</p> <p>以上、情報提供でした。</p> |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様から、何か質問等がありますでしょうか？</p>   |
| 委員一同 | <p>(なし)</p>   |
| 吉田会長 | <p>次に、(2)「協議事項」の「ア」の「実行計画・区域施策編の環境目標1「地球環境」で、時間の都合上、まずは、施策2の「家庭への脱炭素化の促進」について、何かご意見等がございましたら挙手をお願いいたします。</p>  |
| 岡崎委員 | <p>江別市さんからの依頼で、年に2回ほど子育て世代を対象とした「出前ミニエコ講座」というものを実施しています。</p> <p>直近ですと今年の1月14日に子育て支援センターすくすくでお話をしましたが、参加者の方は暖房の省エネについて苦労されているようでした。暖房は家庭によって熱機器や建物の仕様が異なるので一概にこうしたほうが良いという話をするのは難しいですが、そういったニーズを把握して伝えていくような取組ができるといいと思います。</p> <p>また、講座の中では電気のお知らせの見方が知りたいという質問もありました。電力会社によってはアプリやWebサイトで見ることができるといった話をしましたが、知らなかったという方が結構いらっしゃいました。このように皆さん知っているようで意外と知らないことも多くありますので、そういったことも情報提供していくと良いと思います。</p>   |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>   |

|       |   |
|-------|---|
| 岡崎委員  | <p>小学校の出前授業に行くと、学校によって LED 照明に切替済のところとそうでないところがあります。切り替えたタイミングで LED の仕組みや切替の効果などを児童に伝えるような機会があると、それを聞いた子ども達がお家で親御さんに教えることができ良いのかなと思います。</p> <p>また、小学校によっては今後エアコンが設置されるようですので、これについても設置されたタイミングでエアコンの上手な使い方を教えることで、家庭にも伝わるのではないのでしょうか。</p> <p>このように、新しい機器を上手く使う方法を、子どもたちが皆で調べていくことも良いのではないかと思います。</p>  |
| 吉田会長  | <p>ありがとうございます。</p> <p>冬の方がエアコンを酷使していることに、なかなか皆さん気づかないですよ。例えば夏に室温が 35℃の時にエアコンで 25℃下げる時は 10℃分頑張ってもらいますが、冬に室温がマイナス 15℃の時にエアコンで 20℃にする時は 35℃分頑張ってもらわなければならない。このように、夏より冬の方がエアコンのパワーを多く使うので、その分電気代もかかります。こういった仕組みなどを分かっていたく機会などはあっても良いかもしれません。</p> <p>かつては北海道でエアコン暖房を使う家庭はあまりなく、時代的にも化石燃料を燃やして暖める仕組みが主流でした。</p> <p>最近はエアコン暖房などが増えてきましたが、その使用に関する知識が追いついていない部分もあるのかなと思いますので、そういったことも普及啓発できると良いかと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p> |
| 村田委員  | <p>エアコンに関する知識が追いついていないということにつきましては、おそらく市のホームページで情報提供できるかと考えております。</p> <p>また、ニーズの把握につきまして、今の市の財政状況でアンケートを実施するのは難しいかと思っておりますので、他に市域の暖房の使用条件などを把握できるような仕組みがあれば良いと思います。</p>   |
| 岡崎委員  | <p>大規模に考えるのではなく、市で実施している講座のアンケートなどに項目を追加して回答してもらい、消費者協会さんのような団体に協力してもらいなどコツコツと取り組んでいけば良いのではないかと思います。</p>  |
| 村田委員  | <p>検討させていただきます。</p>   |
| 吉田会長  | <p>対象を一部抽出して調べるのも良いかもしれませんが、江別市は人口の 1 割が大学生で、別のところからは人口の 1 割が外国人という話も聞きました。いずれにしてもそういった特殊性があるので何割程度抽出するかが難しいですね。できる範囲でお願いしたいと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>   |
| 後木委員  | <p>前回の協議会でお話のあった酪農学園大学の白樺の木を伐採して再利用する件ですが、その後進捗はありましたか。</p>   |
| 吉田会長  | <p>再利用については、考えてはいるのですが、そこまで進んでいない状況です。</p>  |
| 後木委員  | <p>何かの記事でみたのですが、上江別で持ち込まれた木などを薪に加工して販売している方がいらっしゃるようです。女性一人でやられているようなので事業の規模がどれくらいかは分かりませんが、活用されると良いのかなと思います。</p>   |
| 吉田会長  | <p>ありがとうございます。</p> <p>参考にさせていただきます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>  |
| 安倍副会長 | <p>お配りした資料「みんなで気候アクションに取り組もう」をご覧ください。この資料の発行元である「Climate Reality Project」は元アメリカ副大統領のアル・ゴアさんの呼びかけで、気候変動に関して様々なアクションや発信を行っている世界的な団体です。日本でもプロジェクトが動いており、大会には岡崎さんも参加されたと聞いております。</p> <p>この団体が啓蒙用に提供しているのがこちらの資料ですが、今回お出しした理由として二つあります。</p>  |

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>一つ目は、純粹に分かりやすく、私たちの取り組むアクションが表現されているからです。しかも幅広い視点から、網羅的に表現されています。私の職場の扉にも貼っており、通りかかった人からそれについて聞かれ、会話のきっかけにもなっています。</p> <p>二つ目は、今回「施策2 家庭への脱炭素化の促進」と「施策3 事業者への脱炭素経営の促進」ということで、改めて資料を読み直した際に、エネルギー関係の内容が多く、施策についても大規模な内容の話と感じてしまいました。</p> <p>家庭での取組に際しては、大きなことでなく、もっと細かなことで取り組めることが沢山あることを、この資料を例に示したかったからです。</p> <p>家庭や事業者の取組に関して、この資料だけでは十分ではないと思いますし、アクションによっては、これがどうして脱炭素に繋がるのか疑問に思うものもあるかもしれませんが、それをネタにしてさらに深い話に展開していくこともできると思います。</p> <p>ここまでの発言は、何か回答を求めたり施策に対し具体的な何かを求めたりするものではありません。今後情報発信を進めていく中で、この資料のように簡潔に分かりやすく伝えることを意識していくことが大事だと思います。</p> <p>また、先ほど省エネ診断の話がありましたが、昔札幌市で家庭の省エネ診断というものがあり、江別市もイベントなどでそういったコーナーを作ってもいいのかなと思いました。</p> |
| 岡崎委員  | <p>省エネ診断ですが、Web サイトで簡易的な診断ができるので、それを案内することや、診断まではいかななくてもそれに近いアドバイス等はできるのではないかと思います。</p>  |
| 吉田会長  | <p>ありがとうございます。</p> <p>アル・ゴアさんはノーベル平和賞も受賞しており、環境への取組は平和にも繋がってくるのだと思います。電気もそうですし、水もそうですし、そういうものを奪い合うと戦争になってしまうこともあり、自分の国を優先するとおかしなことになります。そういうことで、ノーベル平和賞を受賞しました。</p> <p>ぜひネイチャーポジティブも含め、こういった気候アクションに取り組める機運が高まると良いなと思います。</p> <p>先ほどのアンケートの回答率や中身もそうですが、経済的にプラスにならないとなかなか動かないのはやむを得ないのかなと感じますし、上場企業は制約があって動きにくい点が多いです。そういったことを考えなくてもいいように動けるのが一番理想的ですが、現実的には難しいので、何かインセンティブがあると良いですね。そういったことを皆さんと考えていきたいと思っています。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>  |
| 村田委員  | <p>安倍さんの資料を江別市のホームページに載せたいと思っていますが、いかがでしょうか。</p>   |
| 安倍副会長 | <p>私も Climate Reality Project のサイトからダウンロードしたので、掲載元が問題ないということであれば大丈夫だと思います。</p>   |
| 岡崎委員  | <p>ソースを出せば良いかと思いますが、出し方として市が推奨していくとかそこまで尖ったことを出して良いかなど問題もあるので、ご検討なされた方が良いと思います。</p>  |
| 村田委員  | <p>抜粋して検討したいと思います。先ほど診断士の話がありましたが、市から広く広めた方が良いでしょう。</p>  |
| 岡崎委員  | <p>診断ができるサイトがありますよ、という感じで掲載してはどうでしょう。ただ、市のホームページは、かなり下がらないと見えないがあるので、SNS を使うなどでお知らせするのは有りかと思います。</p>   |
| 村田委員  | <p>ありがとうございます。脱炭素関連のホームページは、環境課のページと分離させたので、見やすくなっていると思います。掲載方法は、内部で検討したいと思います。</p> <p>本計画は令和 10 年に中間見直しが必要となりますので、今回施策2と施策3について皆さまに協議いただきたく考えております。</p> <p>計画書の中にはコラムという形で、家庭でできるような小さなことも掲載して</p>  |

|      |   |
|------|---|
|      | おりますので、次回の見直しの際にはこちらの内容もブラッシュアップして掲載したいと思います。   |
| 岡崎委員 | こういったコラムについては、計画の見直しまで待っていると社会情勢も変わってしまうので、出そうと思ったときに随時発信したほうが良いと思います。  |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>他にいかがでしょうか。  |
| 千野委員 | 先ほど住民の方からアンケートをとる機会があればという話がありましたが、毎年市で実施している市民アンケートを活用するといいいのではないかと思います。   |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>市内のお店や大学とも協力できると良いですね。<br>他にいかがでしょうか。  |
| 岡崎委員 | アンケートですが、紙媒体だけでなく Web サイトなど、複数媒体を活用すると良いのではないかと思います。  |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>それでは時間も迫ってきましたので、施策3の「事業者の脱炭素経営の促進」について、何かご意見等がございましたら挙手をお願いいたします。   |
| 委員一同 | (なし)  |
| 吉田会長 | 本学では、一番大きな建物である中央館に重油ボイラーが2基あるのですが、それらをより環境負荷が少ない LP ガスのボイラーに交換しました。こういった取組で環境負荷を少しずつ減らしていこうと進めております。<br>皆さまからも企業の中での取組などあれば是非教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。   |
| 岡崎委員 | 先ほどのような事例を紹介していくことは良いと思います。<br>また、J-クレジット制度について、市内で五つの事業者が活用されているとのことですが、具体的な活用事例について他の事業者さんも知りたいと思うので、公表していくと良いと思いました。   |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>皆さまいかがでしょうか。   |
| 村田委員 | 先進事例につきましては、例えばカーム角山さんの事例などは当市のホームページでも紹介しておりますが、今後も情報収集して発信していきたいと思います。<br>J-クレジットにつきましては、確かに活用することでCO2の排出量は減らせますが、それは、お金を出せばCO2の削減価値を買えるという数値の上での削減であり、実質的な再エネの推進には繋がりにくいのではないかと懸念しております。   |
| 岡崎委員 | オシキリ食品さんのようにクレジットを創出している企業もありますので、そういった取組は紹介しても良いのではないのでしょうか。   |
| 村田委員 | 岡崎委員がおっしゃったように、資金循環等で良い面があるのは理解しておりますので、そういった事例については紹介していきたいと思います。  |
| 吉田会長 | ありがとうございます。<br>本学でも、多くの森林を所有していますが、伐採や植樹のサイクルも含めもっと効率よくCO2を吸収できる仕組みが作れないかということで、森林のJ-クレジット化を検討しております。<br>他にいかがでしょうか。  |
| 樋口委員 | 当行ではサステナブル経営支援というメニューがございますが、詳細はホームページに掲載しておりますが、ローン融資に関するご支援やご預金に対するご支援を行っております。<br>また、コンサルティングということで、例えばSDGs宣言をしたいけどどうすればよいか分からないといった際には、我々または関連会社と提携してコンサルを行い、宣言書を作成していただき、それをモニタリングします。<br>ご融資の関係ですと、通常の融資とは異なりサステナビリティに関する取組をどの程度行っているかについて外部からの評価書をいただき、一定の評価が認められればある程度金利を変更するというものがございます。 |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>ご預金の関係ですと、ほくようサステナビリティ定期預金というものがございまして、預けられた預金について通常は融資に回して運用するのですが、その運用用途をサステナ融資に限定するというものがございます。</p> <p>このように、融資をしなくても預金していただくことでサステナビリティに貢献できる形で活動しております。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>事業は個人の方も対象でしょうか。</p>   |
| 樋口委員 | <p>ご融資については事業者さんが対象ですが、定期預金については個人の方も対象となります。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>北海道銀行さんはいかがでしょう。</p>   |
| 坂本委員 | <p>北海道銀行の坂本です。</p> <p>金融機関は全ての業者さんに絡む業界なので、北洋銀行さんと同様に融資やご預金などの推進をしております。しかし、ラインナップは各銀行さんによって少しずつ異なってくると思います。</p> <p>当行では、法人の方の預金についてサステナブル融資に回すということで色をつけ、それを銀行のホームページで評価書のような形で公開、周知することでサステナブルへの意識を深めております。</p> <p>また、銀行内の取組としては、支店ごとの評価をする際にサステナブルな取組については強化をしております。例えば紙の使用量や電気料金、公用車のガソリン使用量の削減について報告をいただきます。それを本部で一括集計し、事業者全体の取組として評価する形をとっております。</p> <p>事業者向けの取組については色々なことをしておりますが、先の話であったようにまだまだ浸透しきれておらず、我々の呼びかけも足りないのかなと感じますので、市内の事業者さんと話す中で推進を進めていきたいと思っております。</p> |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>カーム角山さんはいかがでしょう。</p>   |
| 渡邊委員 | <p>カーム角山の渡邊と申します。</p> <p>弊社の取組としましては、酪農ということで牛を飼っておりますので、牛の糞尿を利用したバイオガス発電を行い、北電さんに全量売電をしております。</p> <p>他には、北海道コカ・コーラボトリングさんで出たコーヒーかすを牛の敷き藁として利用しております。</p> <p>また、具体的な社名は申し上げられませんが一番大きなコーヒー業者のコーヒーかすを弊社が産業廃棄物として引き受ける予定となっております。</p> <p>他にはJ-クレジットの関係で、弊社の畑にあるものを撒くことでCO2を削減できるのではないかとという提案がございまして、今年から実施予定となっております。</p> <p>このように色々な形で脱炭素推進の取組を行っておりますので、機会がございましたら是非見学にいらしてください。</p>   |
| 吉田会長 | <p>委員の皆さんで見学ツアーなど実施できると良いですね。</p> <p>カーム角山さんはコーヒーかすの活用ということでしたが、酪農学園大学ではコカ・コーラさんの茶殻を肥料として活用しております。</p> <p>次に、旭川ガスさんはいかがでしょう。</p>   |
| 廣田委員 | <p>当社は都市ガス事業ということで、天然ガスをご利用いただくことで取組を進めておりますが、導管投資については費用もかかり簡単ではありませんが、延伸することで市内広域において、天然ガスの供給を進めることで、脱炭素に向けた協力をしていければ良いと思っております。</p> <p>また、旭川ではJ-クレジットの取組に関して、鷹栖町の森林を購入するなどしております。</p> <p>今後とも当社として取組を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。</p>  |
| 吉田会長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>次に、北海道電力さんはいかがでしょう。</p>  |

|       |   |
|-------|---|
| 西巻委員  | <p>北海道電力ネットワークは配電線や送電線の管理をする会社という立場でございます。</p> <p>弊社の脱炭素の取組としては、再生可能エネルギー等が繋がった際に他のお客様に影響が出ないように配電線の次世代化をし、皆さんが繋がりたいときに繋げることができるよう準備を進めております。</p> <p>他には高効率のヒートポンプをお勧めするといったことも考えております。</p> <p>また、これは事業者向けではありませんが、ご家庭で寒冷地向けエアコンの導入を検討している方がいらっしゃいましたら、弊社と取引のある家電量販店に伺い、無料で費用等のお見積りをする取組をさせていただいております。</p> <p>また、社内での取組として、2027年度までに電気自動車を100台導入できるよう進めております。</p>   |
| 吉田会長  | <p>ありがとうございます。</p> <p>ヒートポンプのお話がありましたが、我が家でも今年導入しましたが電気代がびっくりするほど下がりました。環境にもやさしいので、機会があれば導入してもいいのではないかと思います。</p> <p>ここまで皆さまに色々な取組をご紹介いただきましたが、他にご意見等ございますか。</p>   |
| 安倍副会長 | <p>事業者の脱炭素化の推進については、本日の資料にあった脱炭素に関する事業者用アンケートの結果が非常に興味深いと感じました。</p> <p>私の職場や私個人もそうですが、近視眼的に、脱炭素化に取り組むメリットを感じない、コストが高くなりそうと思っているところがあります。そうした意味では、最初にお話しいただいた補助金を活用して、事業者が省エネルギー診断を受けて、これくらい経費が削減できるといったものが見えてくると、脱炭素化に向けた取組もし易くなると思いますので、省エネルギー診断に係る補助金の活用といった情報提供はしていただきたいと思いました。</p> <p>私の所属大学ではGreen AIという会社の無料診断を実施しました。大学の面積や建物の情報、重油や電気の使用量を入力すると、AIがこの規模の事業所であればこういった取組ができて、これくらいCO2が削減可能で費用面でもこれくらいお得になるといった結果を示してくれます。また、それらを2050年のゼロカーボンに向けてこういった形でこの順番で進めていき、CO2の排出量をゼロにできるという削減計画も示してくれたので大変興味深かったです。</p> <p>これに加えて、省エネルギー診断を実施することでより具体的な取組が見えると、経費の面から大学内にも説明しやすく、脱炭素化に向けて走り出せるかなと考えております。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p> |
| 吉田会長  | <p>ありがとうございます。</p> <p>そういったところにAIを活用できるのは、非常に今の時代に良いと思います。他にいかがでしょうか。</p>   |
| 岡崎委員  | <p>先ほど北海道銀行さんの取組の中で、支店ごとに電気や紙の使用量を削減しているという話がありましたが、削減のコツなどをお知らせいただくことは可能でしょうか。</p>   |
| 坂本委員  | <p>コツをお伝えするのは難しいですが、普通に取組をお願いするのではなく、個別の評価項目を設定しているのと、実施した取組については見える化し、全店に展開しております。それを毎日実施し、社員が見て随時ブラッシュアップする形を継続しています。</p>   |
| 吉田会長  | <p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>   |
| 委員一同  | (なし)  |
| 吉田会長  | 次に、議事(3)の「その他」ですが、委員の皆様から全体を通して何かありますでしょうか？   |
| 委員一同  | (なし)  |

|      |  |
|------|--|
| 吉田会長 | なければ、事務局から何かありますか？   |
| 丹羽主査 | <p>先に案内がありましたが、環境経営普及セミナーの開催に係るチラシを配布しております。ご関心がありましたら、ご参加いただけますと幸いです。お申込みの際には、環境課までご連絡いただければと思います。</p> <p>また、協議事項についてですが、先ほど村田委員からもありましたとおり、市として計画の見直し、目標の達成に向けて有効的な取組等を皆さんにご協議いただきたいという思いで、議題にさせていただきました。</p> <p>今回様々な意見をいただき、市では中々できないことや、事業者、民間団体、市民として実施している取組をお伺いする事ができましたので、今後も皆様にご相談させていただきながら、市の取組に反映していきたいと思っております。</p> <p>次回の協議会の日程ですが、新年度の初夏の頃に、開催を予定しています。事務局からあらためてご連絡をさせていただきますので、ご多忙のことと存じますが、ご参加のほど、よろしくお願いいたします。</p> |
| 吉田会長 | ただいまの事務局の説明に対して、ご質問やご意見などありますか？  |
| 委員一同 | (なし)   |
| 吉田会長 | <p>なければ、以上で本日の案件はすべて終了いたしました。長時間にわたり、ありがとうございました。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>   |
| 丹羽主査 | <p>吉田会長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回江別市地球温暖化対策実行計画推進協議会を閉会いたします。</p> <p>本日は、長時間にわたりご参加いただきまして、誠にありがとうございました。</p>   |